



作文 1部

全国農業協同組合中央会会長賞

## ぴかぴかごはん

北海道留萌市立東光小学校二年

佐伯 愛花

お父さんがかえってきた!

今年の四月、二年間さつぽろでしごとをがんばっていたお父さんがかえってきました。

お父さんがさつぽろへ行ったのは、わたしがほいく園の年長の時です。それまで、お父さん、お母さん、お姉ちゃん、弟と五人でごはんを食べるのがふつうでした。

でも、お父さんがいないごはんの時も、その日あったことを話しているうちに、あつという間に時間がたっていました。お母さんがニコニコしながら話を聞いてくれたので、お父さんがいなくても、あまりさみしいと思いませんでした。

「今日ね、学校でてつぼうしたんだよ。」

「今日ね、学校でおにごっこしたんだよ。」

お父さんがかえってきて、夕食の時に、わたしも弟も学校のできごとを、たくさんたくさん話してい

るのに気づきました。

手にもっていたごはんが全ぜんへつていないのを見て、お母さんが「ずいぶんしゃべるね。」と、わらいながら言いました。

よこで、お父さんもわらっていました。

わたしは、「みんなで食べるとおいしいね。」と、にっこりしながらごはんを口に入れました。

その日の夕食は、いつも通りのごはんでした。でも、わたしにはとてもおいしかったです。白いごはんが、いつもよりぴかぴか光って見えました。

「だれといっしょに食べたい?」

こう聞かれたら、

「かぞくみんなです!」と、わたしは答えたいです。かぞくみんなでごはんを食べると、おいしくていっぱいいたべられます。

毎日、白いごはんがぴかぴかに見えるように、たのしくごはんを食べて、ぐんぐん大きく、もつともつと大きくなりたいです。